

平成 27 年度 第 1 回審議会 (H28.3.29) での主なご意見

- 女子学生に、是非ものづくりの開発等に参画してもらおうという方向はないものか。
- (ものづくりという)強みをさらに強くするのはいいことだとは思いますが、同時に新しい分野も切り拓いていく必要があるのではないかと。
例えば、若い世代が新たな産業分野を生み出すような支援をしていくことも重要ではないか。工業のアイデアだけではなく、若い人のビジネスアイデアを育てるようなしくみ、例えば支援とか訓練とかコンテストでもいい。工業以外の分野、介護とか観光だけではなく、ITなどを組み合わせた新しいものを生み出せるような仕組みを作りうる時ではないかと思う。
- 県のニーズ調査には、女性の話が全然ない。製造業についても女性の活用に関する調査を検討いただければと思う。
- ITとグローバル、世界的にどう人を育てていくかという視点で見ると、職業能力のエリアに入るかどうかは別として、語学力の強化も重点的にやっていくべき。
- 数字を見ると、グローバルというテーマの訓練はされているが、数字が落ちている。原因は、訓練内容がニーズとマッチしていないことなのではないか。
- 高度な職業人育成は、企業の方々と高等教育機関がどれだけ連携できるかということにかかっているとんでも過言ではない。いわゆる理論やいろいろな技術を座学的に学ぶ、あるいはその施設だけで学ぶということに加えて、企業と連携した上で、カリキュラムを作っていくということが、強く求められているのではないかと。
- (人材確保について)一言で言うと、量はなかなか難しい分野が明確になってきている。集まらない中で就職したのに、また3年以内に離職する。量的というのは、言うほどに簡単ではない。富山県の産業の人材育成は、県内の人材はもとより、外国人の育成ということをお我々は当然考えていかなくてはならない。
日本人がグローバルで勉強しなければいけない英語と同様に、外国人がグローバル化で日本で勉強しなければいけない、最初の分野はやはり日本語である。この日本語について富山県でどれだけ充実した育成プログラムを訓練の中に入れていくのか。
- (介護分野での外国人の受け入れについて)単なる受け入れる数の問題だけではなく、指導の質、教育の質についても一般行政がきちんと見ていく必要があるのではないかと。

- 成長分野にも人を充てていかなければいけないわけだが、富山の根幹にあるのは、やはり「ものづくり」であろうと、そのものづくりを富山県はさらに活かしていくために、語学力をつけなきゃいけない、そんなところで施策をうっていただければと思う。
- 建設関係だけで言うと、実際にそういった高度の若者を育てられる、事業所なり親方さんがいない、育てられない状況になっているのが現状だと思う。それを商工労働関係の方から手厚い支援をしていただければ、もっと育つのではないかと思う。
- 男女雇用機会均等法により、女性の方も建設関係等に取り入れていけるような体制、そういったシステムを構築していただけることが、より富山県の高度な技術を要する能力の開発に関して、いいのではないか。